

学生の「読むスポーツ」とスポーツ活動の関連に関する一考察

小泉昌幸* 渋谷崇行** 伊藤巨志***

(平成14年10月31日 受理)

A Study on the Relationship between Students' Sport to Read and their Sports Activity

Masayuki KOIZUMI* Takayuki SHIBUKURA** Kiyoshi ITOH***

The purpose of this study is to investigate the relationship between students' sports activities and the printed media of sport they read. In order to carry out this study, we asked 340 students to answer the questionnaire we prepared.

The results we obtained were as follows:

1. The printed media the students are reading most were comics and cartoons dealing with a sport.
2. The students who are playing sports were also reading the magazines and books about a sport.
3. The students who read a sport or do not bear no relation to their tendency to enjoy sports at all.
4. The students who like to read a sport rather prefer to play sports themselves.

Key words: printed sports media, sports to read, sports activity

1. はじめに

現代のスポーツは、メディアを抜きに考えることはできない。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等の従来からあるメディアに加え、最近インターネットなど一層多様化してきている。今、我々がスポーツについて話をするとき、スポーツに関する様々な情報はおそらくこれらの中のいずれかのメディアから手に入れたものであるといえる。

こうしてスポーツに関するあらゆる情報を提供してくれるメディアは、様々なスタイルで日常生活の中にとけ込んでいる。現在のスポーツ活動は単にプレーヤーとしてプレーを楽しむのではなく、観戦したり、視聴したり、読んだり、会話をしたりと多様な楽しみ方がある。このように多様なスポーツの楽しみ方は余暇生活の中でのスポーツの位置づけの重要性をあらわしているといえる。つまりスポーツは、暮らしに溶け込んでスポーツライフをかたちづくっている。そして、ますますスポーツとメディアの関係は密接なものとなってきている。

スポーツ・メディアは、テレビ・ラジオなどの「視聴覚メディア」と新聞・雑誌等の「活字メディア」の2つに分類することができる。そのいずれもマスを対象にスポーツをソフ

*体育学 助教授 **体育学 助手 ***県立新潟女子短期大学

トとして取りあげること成功してきていることは明らかである。これはまさしくメディア・スポーツは現代スポーツにおいて1つの明確なジャンルを構成しているといえる。

具体的にそれぞれのメディアは我々に対してどの程度スポーツやそれにまつわるあらゆる情報を提示し、影響を与えているのであろうか。

「視聴覚メディア」についてみると、佐藤は、テレビはスポーツをどのように記録し、伝えてきたかについてテレビ制作者の立場から考察している⁹⁾。浅川は、メディア・スポーツを量的に把握し、そこから具体的な分析をしている。その中で、ただ単に量的拡大ばかりでなく、質的にも変容しつつあると述べている¹⁾。川口は、テレビのスポーツ放映の量的変化を捉え、現実のスポーツ事象の変化の関係について指摘している⁵⁾。

「活字メディア」についてみると、浅川は、このような現在のメディア・スポーツを量的分析から把握し、全体的な傾向として今なおメディア・スポーツは拡大中であることを明らかにしている¹⁾。また佐伯は、スポーツ新聞・雑誌の購読数も衰える兆しはなく、一般紙・誌におけるスポーツ情報量も増大の機運にあり、活字スポーツも堅調に推移しているとみてよいと述べている⁸⁾。橋本は、マスメディアにみられるスポーツの影響として、スポーツ新聞の発行部数と報道内容、少年向き4大漫画誌におけるスポーツを題材にしたマンガ占める割合やその内容などについて明らかにしている²⁾。

また橋本は、「視聴覚メディア」「活字メディア」のどちらにしてもスポーツを「文化」ととらえる視点から、きちんとした批判的精神に裏打ちされた、多くの読者や視聴者の共感を呼ぶような紙面づくりと番組づくりを心がけるとともに、単なる興味本位の内容ではなく、本当の意味でのスポーツのすばらしさを伝えるような報道姿勢を貫くことが必要であると指摘している³⁾。

そこで本研究では、スポーツへの社会化のエージェントとしてスポーツ・メディアの影響が強いことを考慮し^{4,6,7)}、その中でも特に「活字メディア」に着目し、それがスポーツ実施に対してどの程度影響力を持っているのかを検討するものである。

新聞や雑誌などでスポーツ関連記事を「読む」ことは、テレビやラジオでスポーツを視たり聴いたりすることと同様に、私たちが毎日のように行っていることである。新聞のスポーツ欄は男女・年代を問わず、ほとんどの人が目を通すし、男性にはスポーツ新聞を購読する人も少なくない。日々のスポーツニュースだけでなく、雑誌や書籍からスポーツ選手に関する詳しい情報やスポーツに関する技術や知識を習得しようとする人も多い¹⁰⁾。

「読む」スポーツは、「見る」スポーツに比べると、速報性こそ高くないが、時と場所を自由に選ぶことができ、広く行われるスポーツ活動の一つになっている。また、内容的には詳細かつ多様なものが求められており、今後もそういった傾向が強まっていくだろう¹⁰⁾。

また最近では、インターネットでスポーツを「読む」人が増えてきており、単に「読む」だけでなく、そこから交信するといった新しい読み方も生まれつつある¹⁰⁾。

このように余暇生活の中における「読むスポーツ」の楽しみ方は、ますます変化してきている。スポーツは、年齢、性別、心身のハンディキャップに関係なく誰もが生涯を通じて楽しみ、自分のライフステージに合わせて参加する時代である。

生活の中におけるスポーツの価値の高まりや、多様な楽しみ方の広がり、スポーツが

私たちの生活や生涯の価値と深く関わりはじめたことの表れであり、また多様なスポーツの楽しみ方は現代社会の中でのスポーツの位置づけの重要性を示している。

そこで本研究では、学生が「活字メディア」の中でどのメディアに接し、「読む」というスポーツライフについて各個人がどの程度関わってきたかを数値でとらえてみることを試みた。そして「読む」スポーツがどの程度実際のスポーツ活動に結びついているのか、その関連性を明らかにすることを目的にした。

2. 研究の方法

大学生391名を対象として、2002年9月に質問紙法による調査を行った。調査の方法は、授業時間を利用し、集団記入の形式で、調査者が説明をしながら実施した。記入漏れ、記入ミスがあったものを除き、有効回答数340、有効回収率87.0%であった。

3. 結果と考察

Table 1は、学生がスポーツに関するメディアについてどのようなものを読んでいるのかについてみたものである。学生が最も読んでいるメディアはスポーツを題材にしたマンガで59.6%、次いで新聞（一般紙）のスポーツ記事が40.1%、以下スポーツ専門誌、スポーツ

table 1 The printed sport media which students read

	%	
	Newspaper (Sports reports)	Sports Newspaper
Reading sports media	40.1	12.6
Not reading sports media	55.9	87.4
	Sport General Magazine	Sport Technical Magazine
Reading sports media	8.9	21.6
Not reading sports media	91.1	78.4
	Common Magazine(Sports reports)	Book
Reading sports media	17.1	11.8
Not reading sports media	82.9	88.2
	Comic	Internet
Reading sports media	59.6	11.8
Not reading sports media	40.4	88.2

新聞、一般雑誌（スポーツ記事）、書籍、インターネット、スポーツ総合雑誌の順となっている。学生という年代を考えるとマンガを読んでいる者の割合が高いからではないかと考える。新聞のスポーツ記事が次に読まれているが、これは大学図書館に新聞が設置されていること、また自宅において新聞を取っている学生

Table 2 Relativity of the students who read printed sports media and the students play sports

	%	
	Play sports	Play no sports
Reading sports media	14.03	23.58
Not reading sports media	15.22	47.16

$$\chi^2=6.320401 \quad p<0.05$$

が多いからではないかと推察できる。

Table 2 は、学生がスポーツに関するメディアを読んでいるか否かとスポーツ活動を定期的に行っているかどうかについてみたものである。

スポーツ・メディアを読んでいる学生がスポーツ活動に参加しているというより、むしろ定期的にスポーツ活動をしていない学生は、スポーツのメディアに接することもしないということがいえる。スポーツを読むこともすることもしない学生はアルバイト等でスポーツに接する時間につくれないため、スポーツ活動を定期的に行うことができないのではないかと推察する。また、スポーツに関する情報についても速報性のある「視聴覚メディア」から得ているのではないかと考える。また、不定期ではあるが単発的にスポーツ活動を行っている学生は、スポーツに関してどの程度を読んでいるのかについても、今後明らかにしていきたい。

Table 3 は、スポーツに関するどのメディアを読んでいる学生がスポーツ活動に参加しているかについてみたものである。

Table 3 Relativity of each printed media which students read and sport activity they enjoy

	Chi-square	Significance
Newspaper (Sports report)	2.02169263	
Sports Newspaper	7.099394586	**
Sport General Magazine	13.22983759	**
Sport Technical Magazine	24.52227664	**
Common Magazine(Sports report)	17.11315451	**
Book	8.079914917	**
Comic	8.944968225	**
Internet	0.263695665	

** p<0.001

スポーツ新聞、スポーツ総合雑誌、スポーツ専門雑誌、一般雑誌のスポーツ記事、書籍、マンガを読んでいる学生はスポーツ活動に参加しているという結果であった。一般雑誌のスポーツ記事やマンガを除くとどのメディアもスポーツをメインの内容として取りあげているメディアである。スポーツ活動をしている学生は、自分の参加しているスポーツ種目やそれに関連しているスポーツについては読んでいるということが推察できる。Table 1 で、新聞(一般紙)のスポーツ記事を読んでいる学生が比較的多いという結果であったが、Table 3 の結果とあわせて考えると新聞のスポーツ記事を読んでいる学生は、政治、経済、社会、テレビ欄等様々な内容のある中の一つとしてスポーツ記事を読んでおり、スポーツに関して特別興味を持っているからではないと考える。そのため新聞のスポーツ記事を読んでいる学生とスポーツ活動に参加していることについては関連がなかったと考察する。

Table 4 は、スポーツの好き嫌いとはスポーツ関連のメディアを読んでいるか否かの関連についてみたものである。

スポーツは好きであるが、スポーツに関して読まないという学生が 51.5%と半数を占めている。次いでスポーツ活動もスポーツに関して読むことも好きという学生が 36.4%とい

いう結果であった。

Table 2 の結果とあわせて考えると、スポーツに関するものを読む学生も読まない学生もスポーツに対して好意的な意識を持っているが、何らかの原因でスポーツ活動を定期的に行うことができない状況にあると思われる。先にも述べたが、この原因を明らかにしていかなくは、学生をスポーツ活動へ向かわせることができないと考える。

Table 5 はスポーツに関するメディアを読むことに対する欲求とスポーツを行うことに対する欲求について見たものである。スポーツに関して何か読みたいと考えて

いる学生は、スポーツ活動もしたいと考えていることが明らかになった。どのようなメデ

Table 4 Relativity of their preference on sports

	Sports	
	Like	Dislike
Reading sports media	36.4	1.2
Not reading sports media	51.5	10.9

$\chi^2=14.07346$ $p<0.001$

Table 5 Relativity between those who want to read sports printed media and those want to play sports

	Wants to play sports	No wants to play sports	Neither of them
Wants to read sports media	23.9	2.8	10.5
No wants to read sports media	6.1	7.3	3.6
Neither of them	23.9	3.6	18.2

$\chi^2=39.51615531$ $p<^{**}$

ィアであるにしてもスポーツに関して読むことを好意的に考えている学生に対してスポーツ活動がいつでもできる環境を整備しておくことが重要なことであるといえる。それにより、1人でも多くの学生が、スポーツ活動に参加するようになるのではないかと考える。また、スポーツを読むこともすることもしたくない学生に対しては、その原因を明らかにし、スポーツの楽しさを理解させることが必要であると考えられる。

4. まとめ

本研究は、学生が「活字メディア」の中でどのメディアに接し、「読む」というスポーツライフについて各個人がどの程度関わり、そして「読む」スポーツがどの程度実際のスポーツ活動に結びついているのか、その関連性についてみてきた。

結果として、以下のことが明らかになった。

1. スポーツ・メディアの中で学生に読まれているものは、マンガと新聞（一般紙・スポーツ記事）であった。マンガ雑誌においてスポーツを題材にしたマンガが占める割合が高いことと²⁾、学生にとって一番読みやすいメディアであるからではないかと考える。
2. 定期的にスポーツ活動を行っている学生は、スポーツをメインとして扱っているスポーツ新聞、雑誌、書籍はよく読んでいることが明らかになった。これは学生が行っているスポーツ種目に関連したメディアを読んでいるものと考えられることができる。
3. スポーツを読む、読まないに関わらず、スポーツに対して好意的な意識を持っている学

生は多数いた。今後の課題として、スポーツは好きだがスポーツを読まないという学生に関してはその原因を明らかにし、スポーツを読む機会を与えるようにしていかなければならないと考える。

4. スポーツを読みたいと考えている学生は、スポーツ活動もしたいと考えている。

今後の課題として、スポーツを読むこともすることもしたくないという学生については、その理由を明らかにしていかなければならないとかがえていいる。

より多くの学生をスポーツ活動へ参加させるためにスポーツ・メディアの発信者は、単なる興味本位の内容ではなく、本当の意味でのスポーツの楽しさ、すばらしさを提供することが重要なことであると考ええる。

注) 本研究において取りあげた、読むスポーツとは、以下にあげたメディアの中でスポーツに関して書かれたものである。

- ・新聞（一般紙・スポーツ関連記事）
- ・スポーツ新聞
- ・マンガ（スポーツを題材にしたマンガ）
- ・インターネット
- ・スポーツ総合雑誌（ナンバー等のように様々なスポーツ種目を取りあげている雑誌）
- ・スポーツ専門雑誌（サッカーマガジン等のように単一の種目を取りあげている雑誌）
- ・一般雑誌（ファッション雑誌等スポーツ雑誌以外のすべての週刊誌、月刊誌等のスポーツ関連記事）
- ・書籍（ノンフィクション、フィクション、物語、選手の自伝、スポーツ技術解説書等スポーツに関連した本）

References

- 1) 浅川重俊. メディア・スポーツの現在. 体育の科学 47(12):959-963. 1997
- 2) 橋本純一. マスコミとスポーツ. 菅原禮編著. スポーツ社会学の基礎理論. 不昧堂出版: 東京, pp. 294-311. 1984
- 3) 橋本一夫. スポーツ環境としてのメディア. 中村敏雄編. スポーツをとりまく環境. 創分企画: 東京, pp. 71-99. 1993
- 4) 嘉戸修・永島惇正・川辺光・萩原美代子・加藤爽子. 直接的スポーツ関与の分析とその要因に関する研究. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院: 東京, pp. 25-56. 1977.
- 5) 川口智久. テレビジョン時代とスポーツ. 関春南・唐木國彦編. スポーツは誰のために. 大修館書店: 東京, pp. 102-135. 1995
- 6) 丸山富雄. スペクテーター・スポーツの社会的機能に関する考察. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院: 東京, pp. 213-224. 1977.
- 7) 丹羽劭昭・長沢邦子. 女子大生のスポーツ参加を規定する要因の検討. 体育学研究 23-2:109-119. 1978
- 8) 佐伯聰夫. メディア・スポーツ論序説: メディア・スポーツの構造と機能. 体育の科学 47(12):932-937. 1997
- 9) 佐藤寿美. スポーツとテレビの半世紀. 体育の科学 47(4):252-256. 1997
- 10) 余暇開発センター. IV読む. 余暇開発センター編. スポーツライフ白書. ぎょうせい: 東京, pp48-56. 1998